

第5回「宮崎県生涯学習審議会」議事の概要

1 日時

平成22年12月20日(月) 13:30～15:30

2 場所

県庁企業局 県電ホール

3 出席者

高橋 利行	宮崎大学教育研究・地域連携センター准教授
下清水 一正	延岡市公民館連絡協議会会長
脇谷 のりこ	フリーアナウンサー
初鹿野 聡	NPO法人ハートム理事長
片野坂千鶴子	特定非営利活動法人 みやざき子ども文化センター代表理事
永井 裕二	宮崎県農業協同組合中央会総務部長
小金丸 和代	県商工会議所女性会副会長
柳瀬 美津子	南九州短期大学 国際教養学科講師
吉田 多美子	県校長会代表(新富町立上新田小学校長)
吉留 知子	前県PTA連合会副会長
末崎 和彦	宮崎日日新聞社文化部長
岡林 稔	放送大学宮崎学習センター所長
宮崎 幸生	県市町村教育委員会連合会会長(宮崎市教育委員会教育委員長)

県教育庁生涯学習課

興梠課長、大西補佐、黒木補佐、島名主幹、竹内主幹、曾我部社会教育主事、米満社会教育主事、衛藤社会教育主事

4 開会行事

- 審議会会長あいさつ
- 日程説明



5 説明・意見交換

(1) 事務局からの説明

- 具体的な施策について(前回のまとめ及び依頼した部分)
- 答申について

(2) 審 議 (答申について)

審議① 生涯学習の基本理念

(副会長) これまでの生涯学習振興ビジョンにある生涯学習推進の3つの基本的な方向性(①人間力の向上②宮崎ならではの学習資源の創出③新しい公共の創造)に、「横の連携」「縦の接続」の2つの方向性を加えて、5つの方向性にするように受け取られるような表現になっている。やはり、3つの方向性を進める際に、「横の連携」「縦の接続」の2つの考え方(発想)を生かしていくということがわかるような表現を工夫した方がよい。

また、5ページに「第二次宮崎県教育振興基本計画に則り、遂行されるべきである。」という表現があるが、今回の答申は、「第二次宮崎県教育振興基本計画」に盛り込むべき、今後の生涯学習の在り方について諮問すべきものであるため、矛盾する内容になるのではないか。

(委員) これまでの生涯学習振興ビジョンにある生涯学習推進の3つの基本的な方向性を踏襲しながら、「横の連携」「縦の接続」の2つの方向性を加えたものであるのか、そのことについての説明の部分がないことにより、内容がわかりにくいものになっている。5ページの部分にその説明のリード文が必要である。

(委員) 1ページに「学び」について定義されているが、この説明は、何を根拠にしているのか。

(事務局) これまでの生涯学習振興ビジョンの中にも記述されている内容であるが詳細については、次回に説明する。

審議② 県民総ぐるみによる教育の推進

(委員) 現状と課題についての文末表現は、このままでもよいが、求められる方策の文末表現については、「推進する」「すべきである。」とした方がよいのではないか。

(会長) 本審議会においては、これまで具体的な事例にもとづく審議も行われてきたので、答申に述べる「活動の例」については、具体的な内容がよいのではないか。せつかくの議論も抽象的な概念に終わらない方がよい。

(副会長) 第二次教育振興基本計画に盛り込むべき章立てとの関係もあり、「活動の例」は、施策名となるので、現状のままでいくしかない。

ただ、答申内容の記述の中で、具体例の欄を設け、事例を盛り込むとよいのではないか。また、9ページの「活動の例」については、「情報提供の充実」しかないなので、追加の項目の検討が必要である。

審議③ 生涯を通じ学び、挑戦できる社会づくりの推進

- (委員) 生涯学習の振興の現状と課題について、「成人の学習活動や地域活動・社会活動の機会が減少してきている。」とあるが、本当に減少しているのだろうか。各種講座や放課後子ども教室などの学びの成果の生かす場などの充実により、積極的に活動する住民もいる。一概に低下していると言えないのではないか。「現状と課題について」の中の記述は、課題だけでなく、成果も記述する方がよい。
- (副会長) 「成人の学習活動や地域活動・社会活動の機会」については、地域住民のニーズの多様化、拡大により、機会は充実してきているものの、それに対応できなくて、結果的に減少傾向になっている部分もあるのではないか。
- (委員) 保護者や地域住民等が、一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、学校と地域が一体となって、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを実現するための仕組みとしてのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取組も全国的に広がりを見せてきているが、県内の状況はどうか。
- (事務局) 県内では、現在、日向市の平岩小・中学校がコミュニティスクールとしての学校運営を行っている。今後、全小中学校に導入を検討している市もある。
- (委員) 10ページの「家庭や地域の教育力の向上」における「学習機会の充実」と11ページの「生涯学習の振興」における「生涯学習推進体制の整備」については、内容に重なりがある。「第二次宮崎県教育振興基本計画」の枠組みの中に入れるための答申であるので、難しい部分もあるが、整理をする必要がある。